

社会教育委員ニューズレター 第4号

発行 佐賀県社会教育委員連絡協議会
事務局 佐賀県県民環境部まなび課内

社会教育委員実践研修会

平成29年1月17日、県内市町社会教育委員や事務局の方々等、109名の参加を得て、小城市のドウイング三日月で開催しました。今までは、社会教育委員の在り方を考えたり、ここ数年は、県公連と一緒に体験活動と子どもの育ちといった内容で研修してきましたが、今回は、市町の社会教育委員の会議の在り方について協議する場となりました。



全国社会教育委員表彰（川崎富雄氏・白石町）

開会行事では、全国社会教育委員連合表彰を受賞された白石町社会教育委員川崎富雄さんへの表彰状伝達がありました。



基調提案（佐野浩子氏・長崎県長与町）

基調提案では、長崎県長与町社会教育委員の佐野浩子さんから、「自ら考え、行動する社会教育委員として」と題して、1年半かけて答申書の書き方から学習し、32回も協議して答申した成果物を、住民にしっかりと認知してもらい定着するためにアンケートを実施し、その結果を基に町の教育委員会事

務局と連携して様々な取組をしているなどの話がありました。



事例研究（小柳氏・平川氏・塘氏）

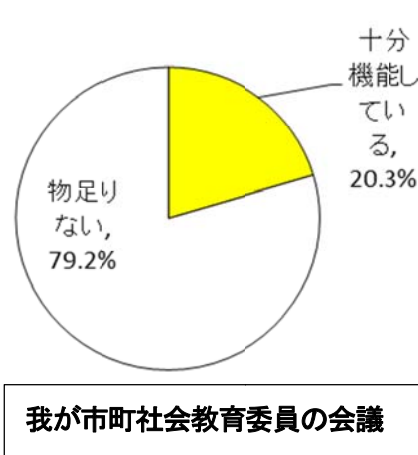
事例研究では、佐賀市社会教育委員の平川哲男さん、小城市委員の小柳容子さん、みやき町委員の塘弘喜さんからそれぞれの市町での社会教育委員の会議について報告がありました。

その後、5〜6人の小グループに分かれてのワークショップ形式で、我が市町の社会教育委員の会議では、今、何に取り組んでいるか、地域の代弁者として、現場主義や会議の見える化を図っているか、について協議しました。

アンケート集計から …一部

54%以上の参加者から回答を得ました。

問1 我が市町の社会教育委員の会議が十分機能しているか。



①十分機能している。

【社会教育委員】

- ・複数回開催されている。
- ・社会教育委員と事務局の方向性が同じで、活発である。

【事務局】

- ・事業報告も多く、委員からの意見も多く出ている。

②物足りない。

【社会教育委員】

- ・行政主導で事業や予算説明の報告で終わり、独自性がない。
- ・年1回〜数回と回数が少なく、

※「今のままでは物足りない」と感じている社会教育委員は、8割



椅子に正座しての小グループ協議

- ・短時間で、テーマがぼやける。
 - ・協議テーマを絞っても勉強会程度で終わってしまう。
 - ・委員としての立ち位置も良くわからず、日常の活動をどう考えて良いかわからない。
 - ・充て職で、社会教育委員としての自覚に欠ける。
 - ・社会教育委員自身の会議出席も少ない。
- 【事務局】
- ・年1回く数回と少なく、事業や予算説明の報告で終わる。
 - ・社会教育委員の出席率も悪く、意見も少ない。
 - ・充て職として、社会教育委員の考え方に温度差がある。

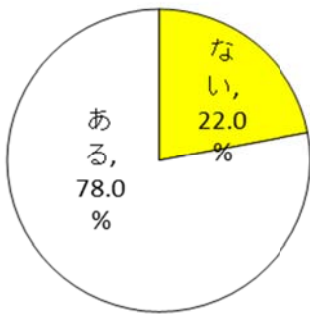
近くおり、多くは行政主導で報告を聞くだけの会議や回数少なさに不満があるようです。

また、事務局も、回数の少なさや会議内容に物足りなさを感じています。ただし、社会教育委員の出席の悪さや充て職委員と他の委員との温度差を感じています。

※県内20市町において、社会教育委員の会議における開催招集権者のほとんどは各市町教育長ですが、ある町では、招集権者は、社会教育委員の会議の委員長でした。

また、10市町にあつては、委員3名以上の請求があれば、会議を招集することができます。

問2 会議の在り方について、変更すべき点の有無



会議の在り方の変更すべき点

①ない。

【事務局】

・社会教育委員の会議の開催準備等で業務負担が一層増える。

②ある。

【社会教育委員】

- ・事務局主導会議からの脱却。
- ・社会教育委員の役割がはっきりしない。

・委員は、4年単位で替わった方がマンネリ化しなくて良い。

・会議を開く目的意識を事務局が持つておらず、課題を明確にした協議内容の提案がない。

・多くの資料を一度に見せられて、何が問題なのかわからないまま承認させられる。

・住民に公開されていない。

・社会教育委員の数を増やす。

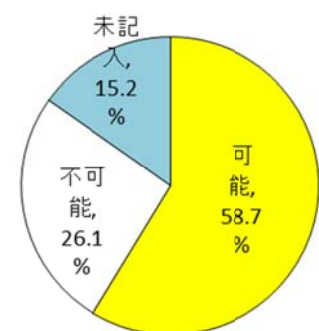
【事務局】

・委員からの意見が活発になるような運営をする。

・社会教育委員も事務局も、社会教育委員として具体的な取組について検討する。

※社会教育委員、事務局共に、社会教育委員が主体的に会議を開催し、議題提案なども行うなど、事務局からの一方的な報告だけに終わらず、地域の課題等について検討協議する等の独自性を発揮した活動を望んでいます。

問3 「変更すべき点がある」場合の変更可能性



「ある」の変更する可能性

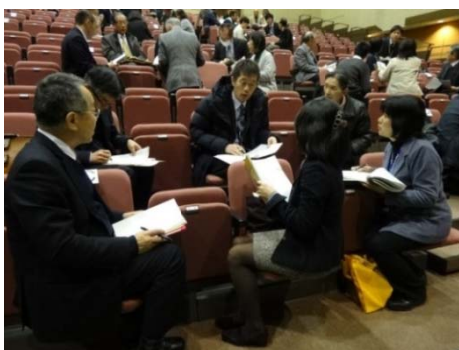
①可能。

【社会教育委員】

・社会教育委員から提言する。

・日当や費用弁償に関係なく、社会教育委員だけでも集まり、事前に話し合いを持って、会議に臨む。

・社会教育委員も事務局も、様々な会議等の場で、社会教育委員について話をする。



どんな場所でも活発な議論を展開

・社会教育委員の会議の議長・委員長から、会議を招集するなど
の積極性を出す。

・事務局は、社会教育委員に何を期待するのかわかりやすくさせる。
事務局の考え方次第である。

【事務局】

・会議資料を事前に配布する。
・社会教育委員からの提案を取り入れる。

・社会教育委員と事務局が一緒に
会議の持ち方を協議する。



会場のあちこちから鋭い質問が、...

②不可能。

【社会教育委員】

・情報が公開されていない。

・社会教育委員の参加意義がはっきり説明されていない。

・仕組みから検討する必要がある
のではないか。

【事務局】

・社会教育委員の選定が難しい。
※社会教育委員に選出された時に、「社会教育委員とは何か」、「自分にどのような役割が会議で求められているのか。」を事務局から明確には聞かされていない、と思つて

いる社会教育委員は一定数おられるようです。
事務局からは、「説明しているのに、充て職等委員には温度差がある。」という意見もありました。

役場（教育委員会）から頼まれて仕方なく…、無理にお願いして委員になってもらっているからあまり強くは言えない…、とお互い遠慮しあっているのではないでしょうか。地域の社会教育の振興にとつてはもったいない話です。

自由意見

今回の実践研修会では、「小グループに分かれてのワークショップ形式は、とても良かった。有意義だった。」という意見が多くありました。

ただし、「研修会場が階段形式では、話し合いがやりにくかった。」「話し合う時間が短かった。」「机があったらよかった。」「グループ

意見を開示する場が欲しかった。」という意見には、今後とも会場の選定とともに留意していきます。

「テーマを絞って研究協議したかどうか。」という意見の反面基本的なことを掘り下げてほしいという意見もあります。

体験活動と子どもの育ちについての研修も数年実施したのですが、十分に意図が伝わっていなかったことについては、事務局として今後の課題となりました。

登壇者コメント
○小柳委員
社会教育委員自らが議題を提案することが大切。そのためには、事業に参加するという体験をおとした意見が大事である。事務局ともしっかり連携協力する。

○平川委員
会議回数を増やすだけではなく、小委員会を設置してもっと深く論議しないといけない。必要に応じて、教育委員会の会議に出席して意見を述べることも大事。

○塘委員
会議を開催するには予算が必要だが、社会教育委員として無償ボランティアとして話し合いを持つ。

それぞれの立場から、もっと積極的な意見開示をする。

○佐野委員

社会教育委員としてやりたいことがあっても様々な壁がある。しかし、権利もある。行動に移して行政の気持ちを変えてほしい。住民の代表として発信力を高める。

○上野会長

市町の社会教育委員の皆さんや会議とどのようにネットワークを取ってレベルアップしていくかが佐賀県社会教育委員の会議に期待されていると感じた。

社会教育委員だけでは社会教育のすべてを把握することは難しい。地域の協力が不可欠である。今、それぞれの市町で何が起きているか実態把握をした上で、社会教育委員の会議で論議をして実践に移していくことが必要だ。

第3回県社教委連役員会

2月13日、県庁で開催しました。
○実践研修会について

・グループワークを取り入れたのは非常に良かった

・次回の実践研修会は、あれもこ

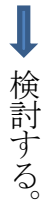
れもと盛り込まずに精選し、話し合いの時間を長くする。

・机はなくても良いので、階段形式ではなく、平場で話し合えるような会場の設定を考える。

・5月の総会・研修会は、新任社会教育委員の研修の意味もあり従来どおりの研修会形式でも止むを得ないが、実践研修会は、グループ討議を中心に据えた研修会が良い。

・平成31年度佐賀大会を見据えて、社会教育委員の活動や会議の活性化に資するようなテーマを研修内容とする。

・ニューズレターを県のHPにアップする等、社会教育委員の活動の情報発信について考えてほしい。



↓ 検討する。

○平成31年度九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会について

・平成31年度は、全国公民館研究集会も兼ねて九州地区公民館研究大会が開催される。社会教育と公民館の2つの研究大会を別々に開催するのか。合同で開催するのか。

・関係者の負担が増えるから合同開催する、というのは理由にはならない。

・今後の社会教育委員の活動や会議にとつて、研究協議すべき課題は何かを明確にした上で、合同開催するか個別開催するかを考えなくてはならない。

・社会教育委員と公民館職員が一堂に会して、研究協議する意義はあるが、両者における課題の共有が必要である。

・公民館大会と合同開催する場合、行政、学校、社会教育委員、公民館、自治公民館など地域を取り巻く輪を広げた新しいステップを踏めるような内容が必要となる。

・早い時期に、社教委連役員と県公連役員と合同で意見交換をして、ある程度の見通しを決めてから合同開催するのかを決めた方が良い。

九州ブロック社会教育研究大会宮崎大会

期日：平成29年11月9日～10日
会場：メディキット県民文化セン

ター他（宮崎市内）

主題：人と人をつむぐ社会教育の創造く地域住民主体によるネットワーカーづくり

本県は、第3分科会「地域における学校との協働体制づくり」で事例発表することになっています。

この分科会は、平成27年12月21日、中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」を受けたものです。

その他にも、
第1分科会「家庭教育支援」
第2分科会「青少年の健全育成」
第4分科会「地域づくりと社会教育委員の役割」
が開催されます。

全体会では、「人と人をつむぐ社会教育の創造く地域住民主体によるネットワーカーづくり」というテーマでパネルディスカッションが予定されています。

全国社会教育研究大会

北海道大会

期日：平成29年9月12日～13日

会場：札幌「コンベンションセンター」

主題：まちづくり・人づくりの地域ぐるみで取り組む社会教育の在り方

事例発表はありませんが、6名程度の小グループによる参加型フリートーク形式での開催です。

新年度役員の交代について

「杵西地区役員↓大町町から」
「藤津地区役員↓太良町から」
「監事↓鳥栖市から」
になります。

それぞれ各市町での人選をよろしくお願いいたします。

社会教育委員の会議傍聴

今年度は、佐賀市と小城市の社会教育委員の会議の傍聴をさせていただきます。

その他、幾つかの市町から傍聴のお誘いをいただきましたが、残念なことにも別用務との都合が付かず傍聴できませんでした。

3月に開催される市町や次年度に傍聴させていただけるようでしたら、ぜひお誘いの一報をお願いします。